

決算説明会資料

2023年3月期 第1四半期

 MITSUI-SOKO GROUP

2022年8月9日
三井倉庫ホールディングス株式会社

目次

▶ 2023年3月期 第1四半期決算内容

- ・ 連結業績概要
- ・ セグメント別業績
- ・ 営業利益増減要因
- ・ 営業外損益・特別損益
- ・ キャッシュフローの状況
- ・ バランスシートの状況

■ 2023年3月期 決算見通し

- ・ 連結業績見通し概要
- ・ 業績予想の修正内容 増減要因
- ・ セグメント別業績見通し
- ・ 営業外損益・特別損益見通し
- ・ キャッシュフロー見通し
- ・ バランスシート見通し

■ 株主還元

■ 会社概要

- ・ 三井倉庫グループ PURPOSE について
- ・ 沿革・ビジネスライン・ビジネスモデル・収益構造
- ・ 市場環境・競合
- ・ コアコンピタンス
- ・ 事業計画・経営指標
- ・ 社外からの主な評価 (ESG)

- 戦略投資案件が通期寄与
- 荷動きが回復する中で、顧客の輸送ニーズを捉えて着実に取り扱いを伸長
- サプライチェーン混乱下における特需取込は、第1四半期では想定の範囲内で継続

(単位：億円、端数四捨五入)

| 連結合計 | 22/3期 1Q | 23/3期 1Q | 増減額 | 増減率 |
|---------------------|----------|------------|------|--------|
| 営業収益 | 683 | 786 | +103 | +15.0% |
| 営業利益 | 56 | 68 | +12 | +21.9% |
| 経常利益 | 56 | 71 | +15 | +26.9% |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 32 | 48 | +15 | +47.5% |

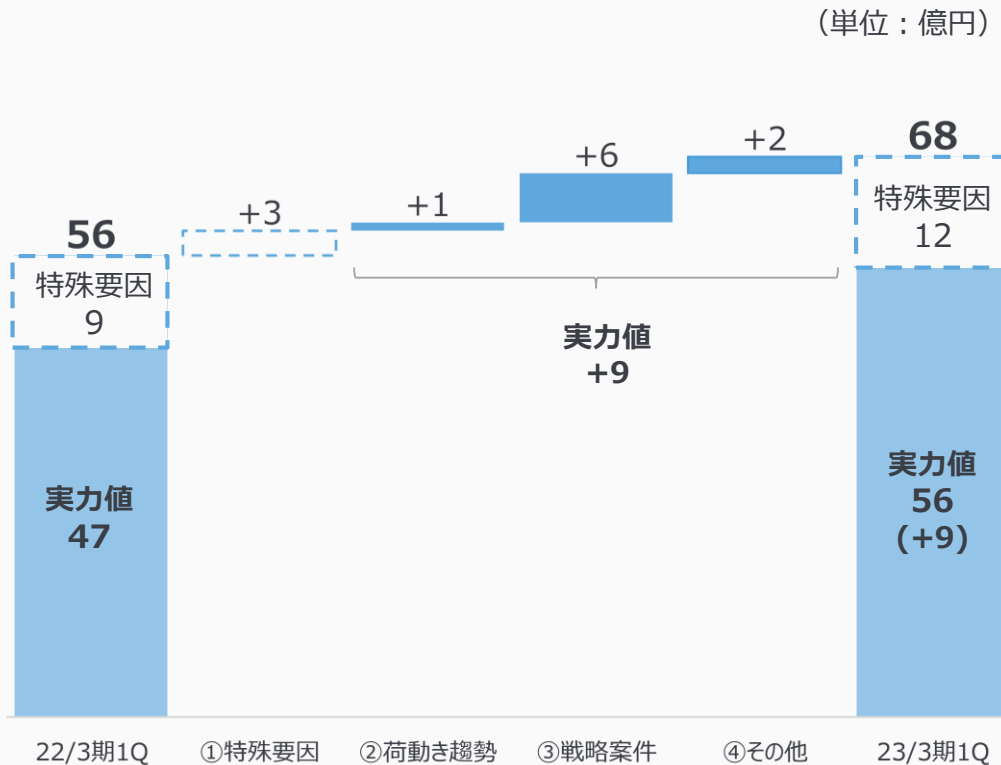
- 物流事業において増収増益
- 不動産事業は前期並み

(単位：億円)

| 事業セグメント | | 22/3期 1Q | 23/3期 1Q | 増減額 | 増減率 |
|---------|------|----------|------------|------|--------|
| 物流事業 | 営業収益 | 664 | 766 | +103 | +15.4% |
| | 営業利益 | 51 | 63 | +12 | +23.0% |
| 不動産事業 | 営業収益 | 21 | 22 | +0 | +1.2% |
| | 営業利益 | 12 | 13 | +0 | +3.9% |
| 全社・消去 | 営業収益 | ▲2 | ▲2 | ▲0 | — |
| | 営業利益 | ▲8 | ▲8 | ▲0 | — |
| 連結合計 | 営業収益 | 683 | 786 | +103 | +15.0% |
| | 営業利益 | 56 | 68 | +12 | +21.9% |

- 物流事業は、前期に立ち上げた新設物流施設が利益貢献。
- 加えて、フォワーディング業務収入、及び海外における物流の収入が伸長。

- ・ 特殊要因は第1四半期では前年同期比増加
- ・ 前期立上の戦略投資案件が通期寄与



①特殊要因 (+3)

↑：海上コンテナ不足に伴う航空輸送シフト及び航空運賃高騰 : + 3

②荷動き趨勢 (+1)

↑：海上・航空FWD業務 定常輸送取扱増加 : + 4
 ↑：海外における保管・運送業務取扱増加 : + 3
 ↑：港湾運送業務コンテナ取扱増加 : + 1
 ↓：家電関連物流取扱減少 (前期オリパラ需要反動減等を含む) : ▲ 7

③戦略投資案件 (+6)

↑：ヘルスケア物流専用倉庫の通期寄与、初期費用の解消 : + 2
 ↑：新設物流センターの通期寄与 : + 4

④その他 (+2)

↑：為替影響 : + 2

- 金融収支は前期並み
- 営業外損益に為替差益

(単位：億円)

| 連結合計 | 22/3期 1Q | 23/3期 1Q | 増減額 |
|-----------------|----------|----------|-----|
| 営業利益 | 56 | 68 | +12 |
| 営業外損益 | 1 | 3 | +3 |
| 金融収支 | ▲0 | 0 | +0 |
| 経常利益 | 56 | 71 | +15 |
| 特別利益 | — | 5 | +5 |
| 特別損失 | — | — | — |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 32 | 48 | +15 |

- 営業外損益に為替差益+1億円
- 受取利息・配当（2億円）、支払利息（2億円）共に前期並みの水準
- 退職給付信託財産の一部を事業主である当社に返還、特別利益を計上

- 営業キャッシュフローは57億円の増加
- 戦略投資はリースを活用
- 株主還元を拡充

(単位：億円)

| 連結合計 | 22/3期 1Q | 23/3期 1Q | 増減額 |
|----------------|----------|----------|------|
| 営業キャッシュフロー | 22 | 80 | + 57 |
| 税金等調整前純利益 | 56 | 76 | + 20 |
| 減価償却・のれん償却額 | 22 | 25 | + 2 |
| 法人税等の支払額 | ▲59 | ▲49 | + 10 |
| 投資キャッシュフロー | ▲37 | ▲13 | + 24 |
| 設備・ソフトウェア投資 | ▲37 | ▲13 | + 24 |
| 財務キャッシュフロー | 55 | 4 | ▲50 |
| 借入金・社債増減 (ネット) | 69 | 47 | ▲22 |
| 配当金支払 | ▲7 | ▲23 | ▲16 |
| 現金及び現金同等物 | 270 | 306 | + 36 |

- 純利益の増加を主因に営業CFも増加
- 投資CFの支出額は減少したものの、別途当1Qにおいてもマテハン機器の取得等の投資をリースによって実行
- 前期末配当を増配、配当金支払額が増加

- マテハン機器の取得により有形固定資産・リース債務が増加
- 投資に伴い一時的にD/Eレシオが上昇

(単位：億円)

| 連結合計 | 22/3期末 | 23/3期 1Q末 | 増減額 |
|----------------|--------|--------------|--------|
| 総資産 | 2,583 | 2,692 | + 109 |
| 現金及び預金 | 231 | 309 | + 78 |
| 売上債権 | 412 | 415 | + 3 |
| 有形・無形固定資産 | 1,482 | 1,506 | + 24 |
| 有利子負債 (リース債務含) | 994 | 1,067 | + 73 |
| 借入金・社債 | 940 | 989 | + 49 |
| リース債務 | 54 | 77 | + 23 |
| 自己資本 | 795 | 842 | + 47 |
| 自己資本比率 | 30.8% | 31.3% | + 0.5 |
| D/Eレシオ | 1.25 | 1.27 | + 0.02 |

- 物流センターにおけるマテハン機器の取得等の投資を実行し、有形固定資産が増加。
- 上記のマテハン機器の取得をリースにより行ったためリース債務が増加。
- 決算資金の借入、及び投資の実行に伴うリース債務の増加に伴い一時的にD/Eレシオは上昇。

目次

■ 2023年3月期 第1四半期決算内容

- ・ 連結業績概要
- ・ セグメント別業績
- ・ 営業利益増減要因
- ・ 営業外損益・特別損益
- ・ キャッシュフローの状況
- ・ バランスシートの状況

▶ 2023年3月期 決算見通し

- ・ 連結業績見通し概要
- ・ 業績予想の修正内容 増減要因
- ・ セグメント別業績見通し
- ・ 営業外損益・特別損益見通し
- ・ キャッシュフロー見通し
- ・ バランスシート見通し

■ 株主還元

■ 会社概要

- ・ 三井倉庫グループ PURPOSE について
- ・ 沿革・ビジネスライン・ビジネスモデル・収益構造
- ・ 市場環境・競合
- ・ コアコンピタンス
- ・ 事業計画・経営指標
- ・ 社外からの主な評価 (ESG)

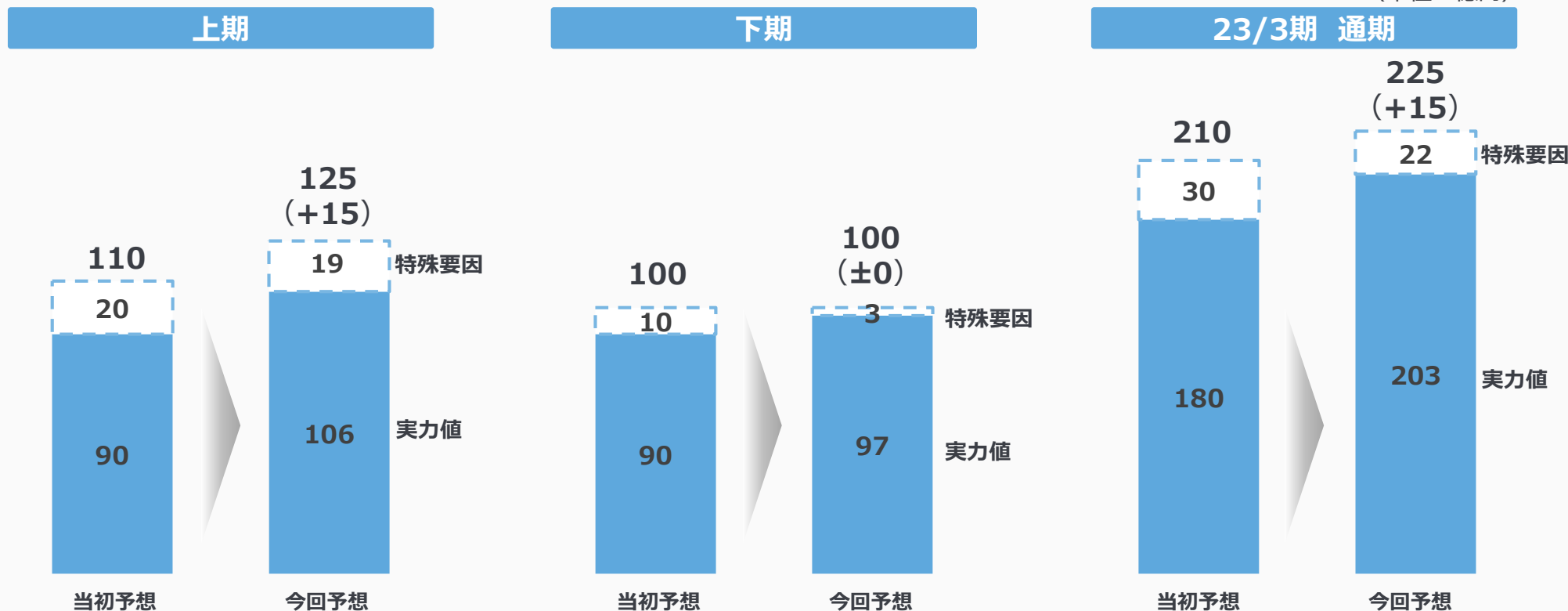
- 変化する顧客ニーズに的確に対応し、FWDの取扱いを伸ばしたことから上方修正
- 一方で、下期の特殊要因の解消は当初想定よりも早く進む見通し

(単位：億円)

| 連結合計 | 23/3期 上期 | 前回予想比 | 23/3期 下期 | 前回予想比 | 23/3期 通期 | 前回予想比 |
|---------------------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| 営業収益 | 1,570 | +100 | 1,430 | — | 3,000 | +100 |
| 営業利益 | 125 | +15 | 100 | — | 225 | +15 |
| 経常利益 | 125 | +17 | 95 | — | 220 | +17 |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 80 | +17 | 55 | — | 135 | +17 |

- 上期では実力値を順調に伸ばす。下期は実力値の伸びと、特殊要因の減少で差引フラット。

(単位：億円)



主な増減内容

| | |
|--------------|-----|
| FWD取扱好調 | +10 |
| 円安による影響 | +3 |
| その他 | +3 |
| 航空輸送減 (特殊要因) | ▲1 |

主な増減内容

| | |
|--------------|----|
| FWD取扱好調 | +3 |
| 円安による影響 | +4 |
| その他 | - |
| 航空輸送減 (特殊要因) | ▲7 |

主な増減内容

| | |
|--------------|-----|
| FWD取扱好調 | +13 |
| 円安による影響 | +7 |
| その他 | +3 |
| 航空輸送減 (特殊要因) | ▲8 |

- 物流事業の特殊要因は下期にかけて縮小の見込みも、実力値は順調に伸長
- 不動産事業は通期で前期並みの見込み

（単位：億円）

| 事業セグメント | | 23/3期 上期 | 前期比 | 23/3期 下期 | 前期比 | 23/3期 通期 | 前期比 |
|---------|------|-------------|------|-------------|------|-------------|-----|
| 物流事業 | 営業収益 | 1,527 | +169 | 1,384 | ▲180 | 2,911 | ▲11 |
| | 営業利益 | 116 | +11 | 93 | ▲39 | 209 | ▲28 |
| 不動産事業 | 営業収益 | 46 | ▲0 | 49 | ▲0 | 95 | ▲1 |
| | 営業利益 | 27 | ▲1 | 30 | ▲0 | 57 | ▲1 |
| 全社・消去 | 営業収益 | ▲3 | +1 | ▲3 | +1 | ▲6 | +2 |
| | 営業利益 | ▲18 | ▲2 | ▲23 | ▲4 | ▲41 | ▲5 |
| 連結合計 | 営業収益 | 1,570 | +170 | 1,430 | ▲180 | 3,000 | ▲10 |
| | 営業利益 | 125 | +9 | 100 | ▲43 | 225 | ▲34 |
| 営業利益の内訳 | | 上期 | 前期比 | 下期 | 前期比 | 通期 | 前期比 |
| 連結合計 | 特殊要因 | 19 | ▲3 | 3 | ▲64 | 22 | ▲67 |
| | 実力値 | 106 | +12 | 97 | +21 | 203 | +33 |
| | 営業利益 | 125 | +9 | 100 | ▲43 | 225 | ▲34 |

- 下期にかけて特殊要因の縮小から減収減益となる見込み。

- テナントの動向に変化なし。

- 特殊要因は前期比減少
- 一方で、実力値（円安の影響を含む）は伸長

・ 通期でも金融収支・営業外損益は前期並みを見込む

（単位：億円）

| 連結合計 | 23/3期 上期 | 前期比 | 23/3期 下期 | 前期比 | 23/3期 通期 | 前期比 |
|---------------------|-------------|-----|-------------|-----|-------------|-----|
| 営業利益 | 125 | 9 | 100 | ▲43 | 225 | ▲34 |
| 営業外損益 | — | ▲1 | ▲5 | ▲0 | ▲5 | ▲1 |
| 金融収支 | ▲2 | ▲0 | ▲2 | 0 | ▲4 | +0 |
| その他 | 2 | ▲1 | ▲3 | ▲1 | ▲1 | ▲1 |
| 経常利益 | 125 | 8 | 95 | ▲43 | 220 | ▲36 |
| 特別利益 | 5 | 5 | — | — | 5 | +5 |
| 特別損失 | — | — | — | — | — | — |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 80 | +13 | 55 | ▲23 | 135 | ▲10 |

・ 2Q以降に特別利益・特別損失は見込んでいない。

- 通期営業CFは前期比44億円増の275億円の見込み
- 成長投資と株主還元のバランスを踏まえたキャッシュアロケーションを見込む

（単位：億円）

| 連結合計 | 23/3期 上期 | 前期比 | 23/3期 通期 | 前期比 |
|---------------|-------------|------|-------------|-----|
| 営業キャッシュフロー | 190 | +105 | 275 | +44 |
| 減価償却・のれん償却 | 51 | +6 | 99 | +5 |
| 投資キャッシュフロー | ▲35 | +14 | ▲90 | ▲20 |
| 設備投資 | ▲20 | +22 | ▲68 | ▲14 |
| ソフトウェア投資 | ▲12 | ▲3 | ▲22 | ▲3 |
| 財務キャッシュフロー | ▲92 | ▲86 | ▲155 | +17 |
| 借入金・社債増減（ネット） | ▲45 | ▲55 | ▲85 | +56 |
| 配当金支払 | ▲23 | ▲16 | ▲41 | ▲25 |
| 現金及び現金同等物 | 300 | +42 | 270 | +42 |

- 通期では、法人税等の支払額が減少し、営業CFは増加する見通し。
- 設備の維持更新投資や、システム関連の投資の実行を見込む。
- 当期は、別途リースによってマテハン機器の取得などの設備投資を実行。

- 1Q末以降は、財務規律目標のD/Eレシオ1倍を目安に運用し、総資産は横ばいで推移、有利子負債は減少する見込み

(単位：億円)

| 連結合計 | 23/3期 上期末 | 前期末比 | 23/3期末 | 前期末比 |
|----------------|--------------|-------|--------------|-------|
| 総資産 | 2,690 | +107 | 2,685 | +102 |
| 現金及び預金 | 300 | +69 | 270 | +39 |
| 売上債権 | 425 | +13 | 425 | +13 |
| 有形・無形固定資産 | 1,500 | +18 | 1,510 | +28 |
| 有利子負債 (リース債務含) | 975 | ▲19 | 934 | ▲60 |
| 借入金・社債 | 900 | ▲40 | 860 | ▲80 |
| リース債務 | 75 | +21 | 74 | +20 |
| 自己資本 | 873 | +78 | 908 | +113 |
| 自己資本比率 | 32.5% | +1.7 | 33.8% | +3.1 |
| D/Eレシオ | 1.12 | ▲0.13 | 1.03 | ▲0.22 |

- 1Qで物流センターにおけるマテハン機器の取得等の投資を実行し、有形固定資産が増加。以降は横ばいで推移する見込み。
- 借入金の返済により、有利子負債は減少する見込み。
- 上記マテハン機器の取得に伴いリース債務は増加。
- 期末にはD/Eレシオを1.0倍に近づける運用を目指す。

目次

■ 2023年3月期 第1四半期決算内容

- ・ 連結業績概要
- ・ セグメント別業績
- ・ 営業利益増減要因
- ・ 営業外損益・特別損益
- ・ キャッシュフローの状況
- ・ バランスシートの状況

■ 2023年3月期 決算見通し

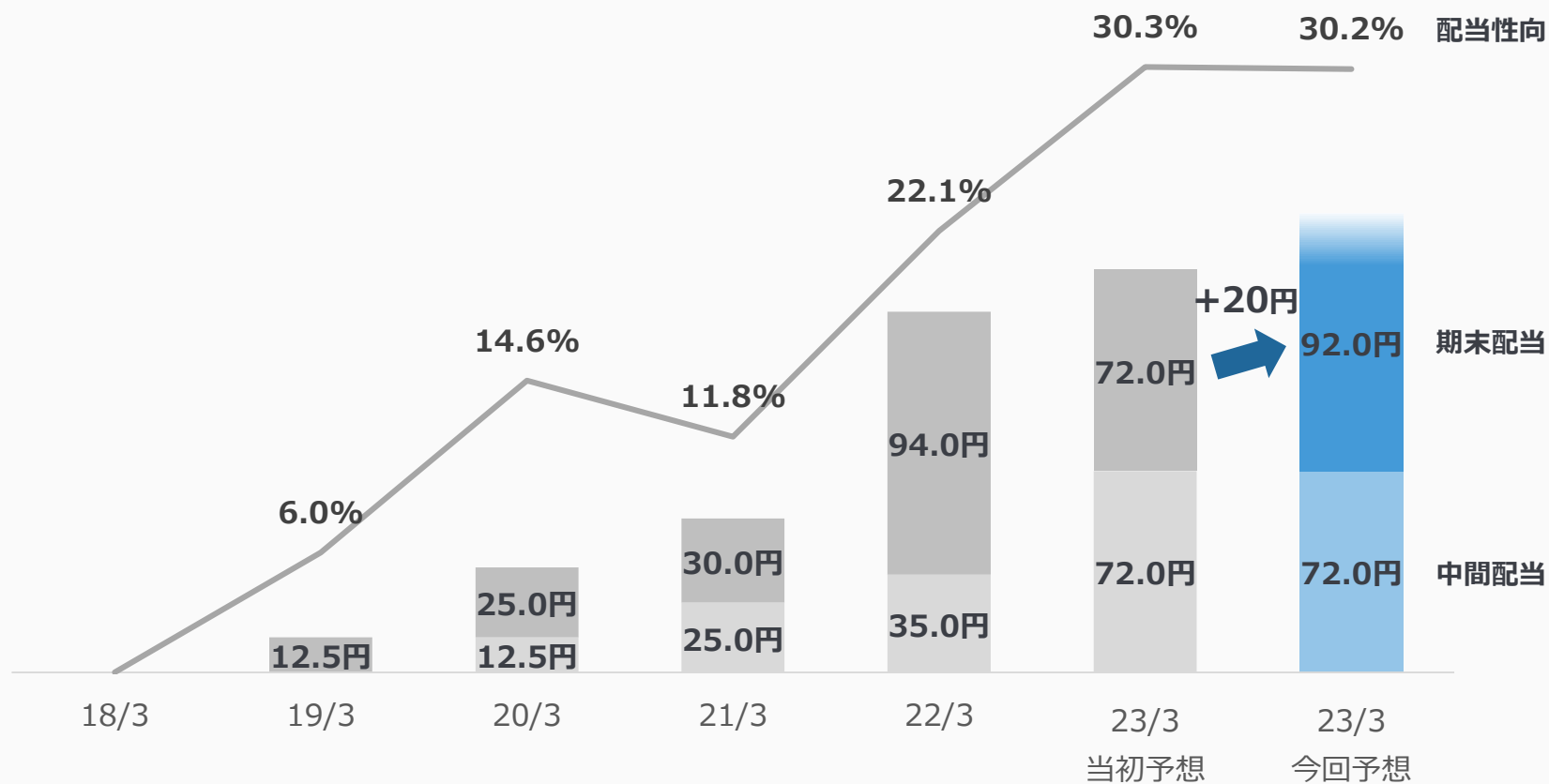
- ・ 連結業績見通し概要
- ・ 業績予想の修正内容 増減要因
- ・ セグメント別業績見通し
- ・ 営業外損益・特別損益見通し
- ・ キャッシュフロー見通し
- ・ バランスシート見通し

▶ 株主還元

■ 会社概要

- ・ 三井倉庫グループ PURPOSE について
- ・ 沿革・ビジネスライン・ビジネスモデル・収益構造
- ・ 市場環境・競合
- ・ コアコンピタンス
- ・ 事業計画・経営指標
- ・ 社外からの主な評価 (ESG)

- 年間配当性向30%を基準に、業績に連動した機動的な配当
- 業績の上振れを期末配当予想に反映（+20円の増配）



目次

■ 2023年3月期 第1四半期決算内容

- ・ 連結業績概要
- ・ セグメント別業績
- ・ 営業利益増減要因
- ・ 営業外損益・特別損益
- ・ キャッシュフローの状況
- ・ バランスシートの状況

■ 2023年3月期 決算見通し

- ・ 連結業績見通し概要
- ・ 業績予想の修正内容 増減要因
- ・ セグメント別業績見通し
- ・ 営業外損益・特別損益見通し
- ・ キャッシュフロー見通し
- ・ バランスシート見通し

■ 株主還元

▶ 会社概要

- ・ 三井倉庫グループ PURPOSE について
- ・ 沿革・ビジネスライン・ビジネスモデル・収益構造
- ・ 市場環境・競合
- ・ コアコンピタンス
- ・ 事業計画・経営指標
- ・ 社外からの主な評価 (ESG)

PURPOSE

私たちの存在意義



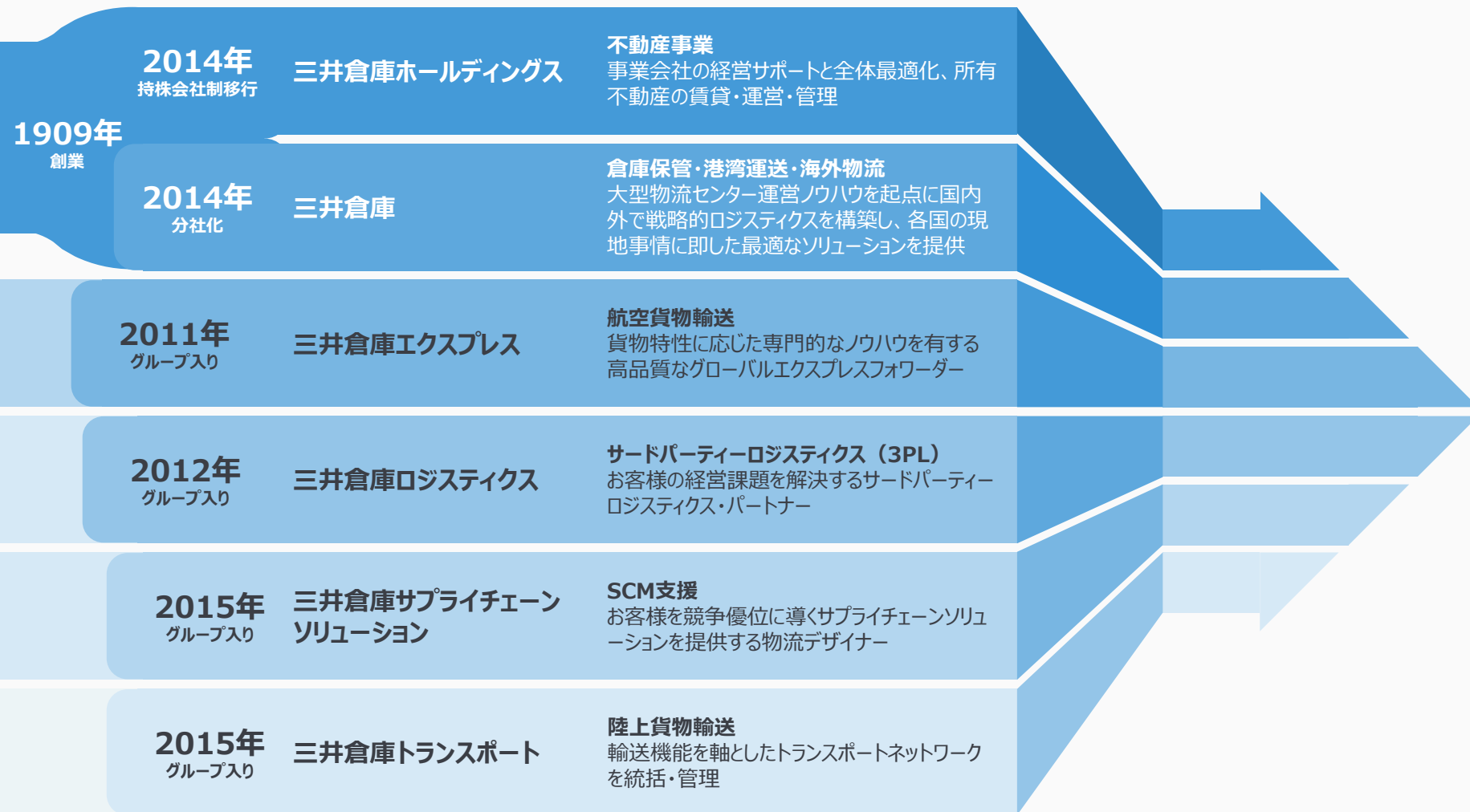
「社会を止めない。進化をつなぐ。」

このたび制定した「社会を止めない。進化をつなぐ。」という PURPOSE は、当社グループが果たす役割であり、揺るがない信念として、社会に生み出す価値を体現しています。

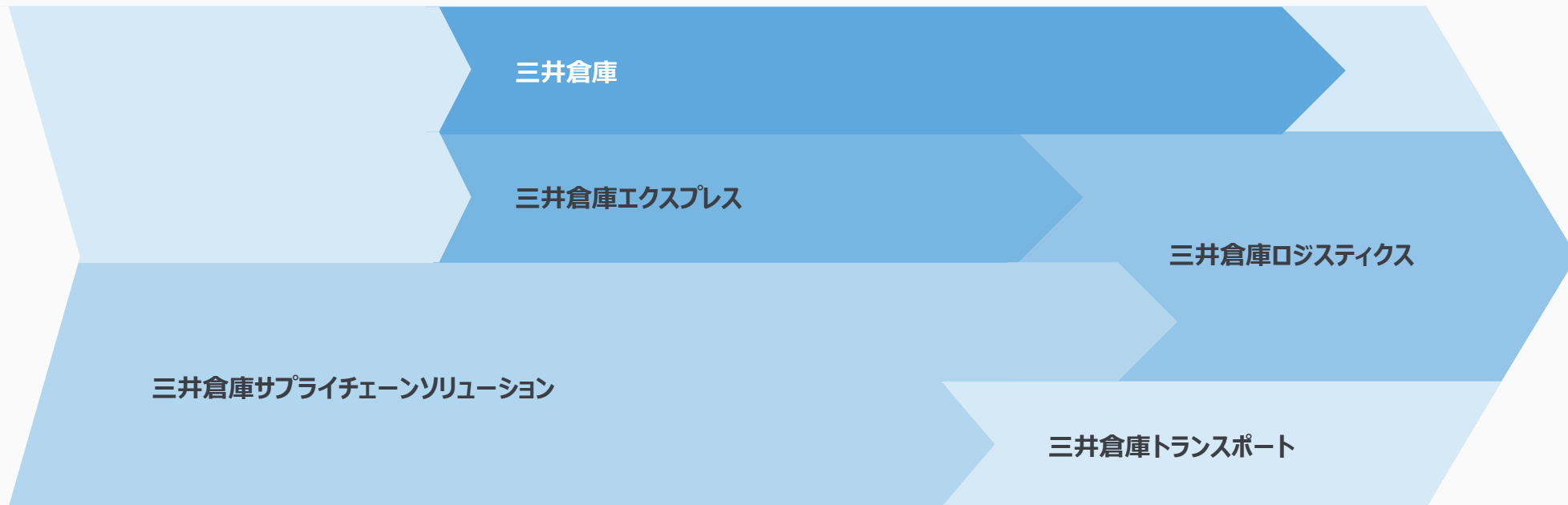
物流は社会インフラとして重要な役割を担っており、経済活動や人々の暮らしを支える現代社会の基盤そのものです。

三井倉庫グループは 100 年以上にわたり物流業を営み、国と国、産業と産業、人と人、あらゆる対象を繋ぎ、社会の進化を支えてきました。変化の激しい時代においても、当社グループが果たす役割に変わりはなく、「社会を止めない。進化をつなぐ。」ことで、世界をより良い方向へ動かし、心豊かで持続可能な社会の実現を目指してまいります。

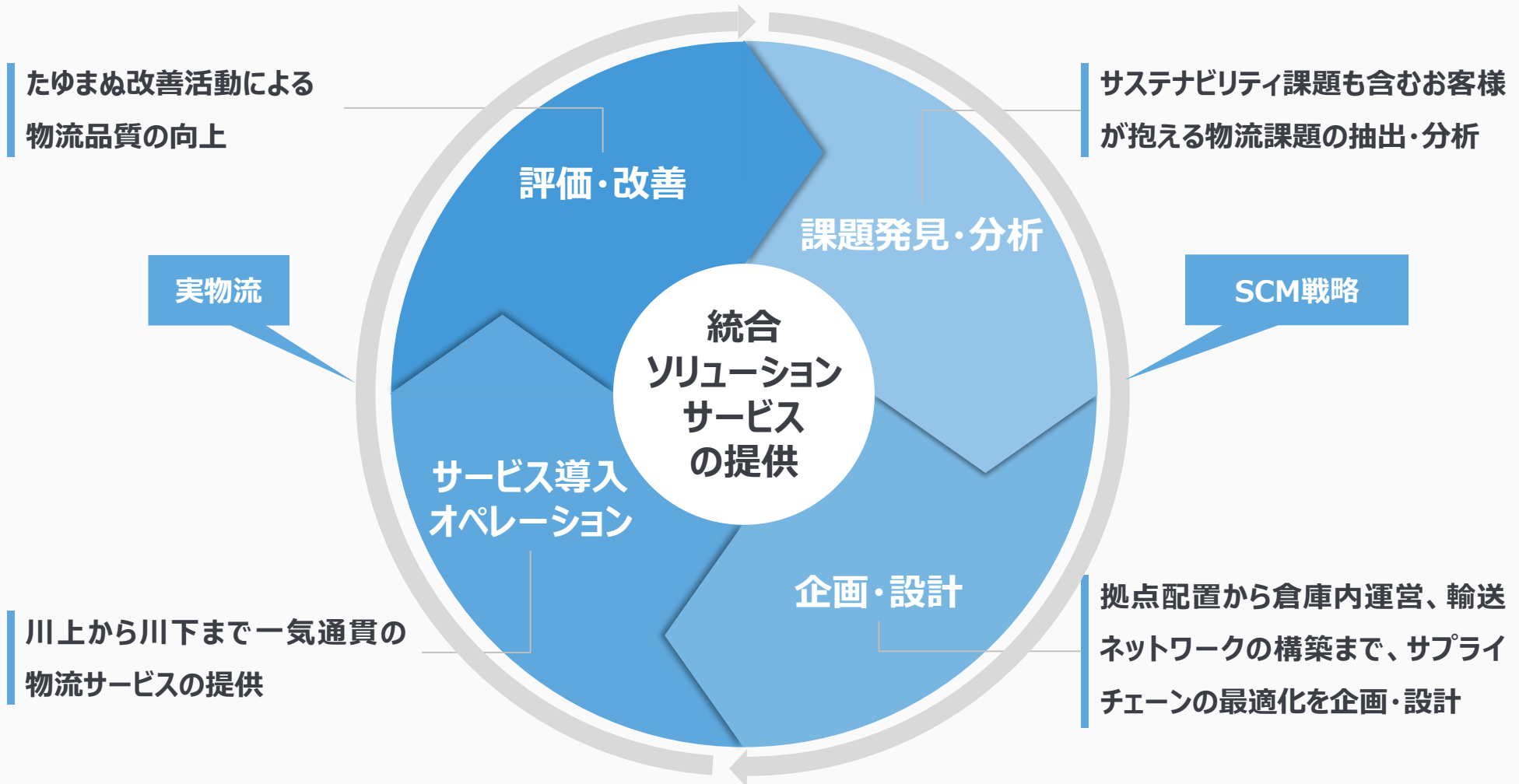
倉庫業から、総合物流企業への三井倉庫グループのあゆみ



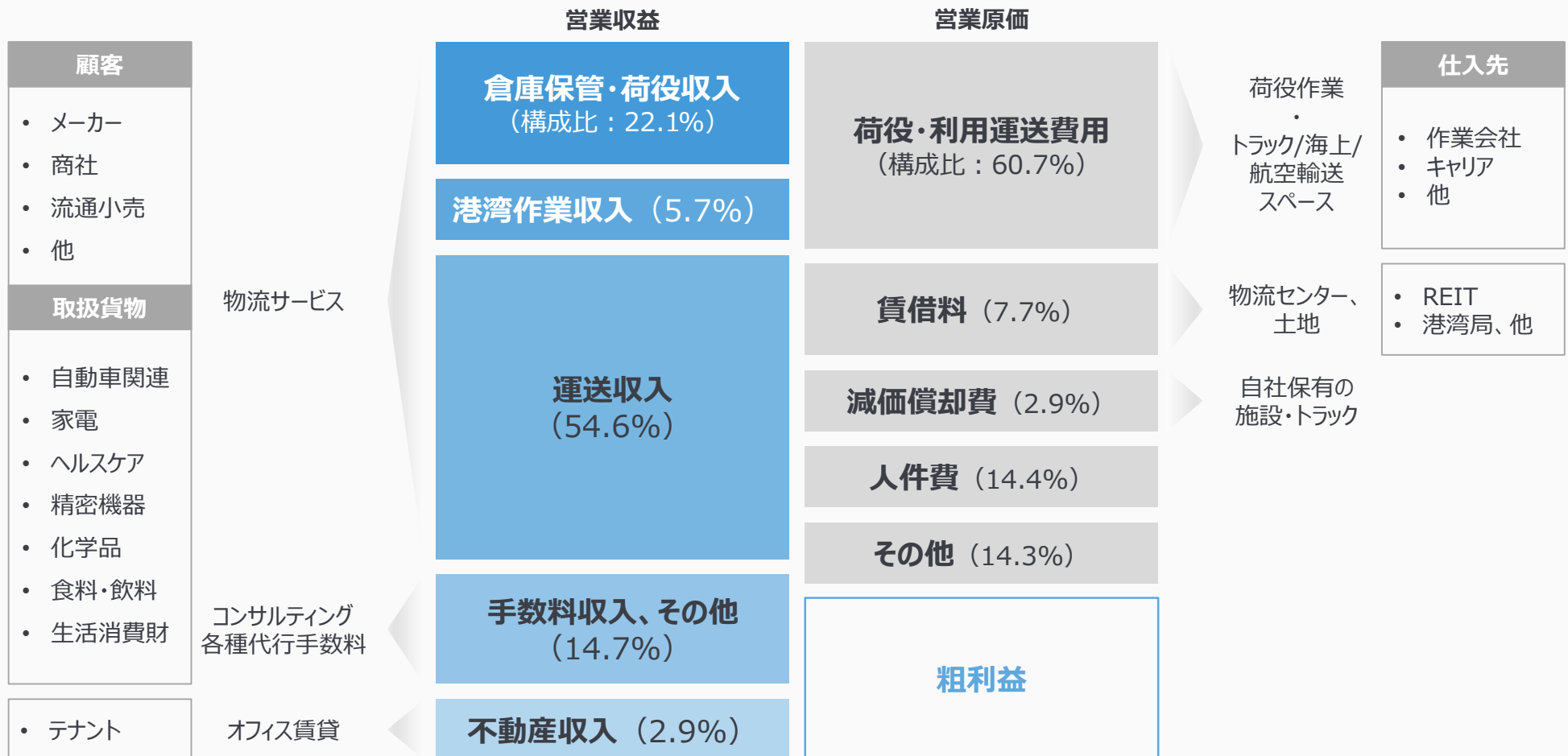
・ フルスペックの物流機能で一気通貫の物流サービスを提供



SCM戦略と実物流を組み合わせた統合ソリューションサービス



- ・ 実物流サービスと、コンサルティングの提供による収入
- ・ 所有アセットを活かした不動産賃貸収入



- 急速な環境変化に伴い、高まるサプライチェーンの重要性
- 物流の専門家への強いニーズ

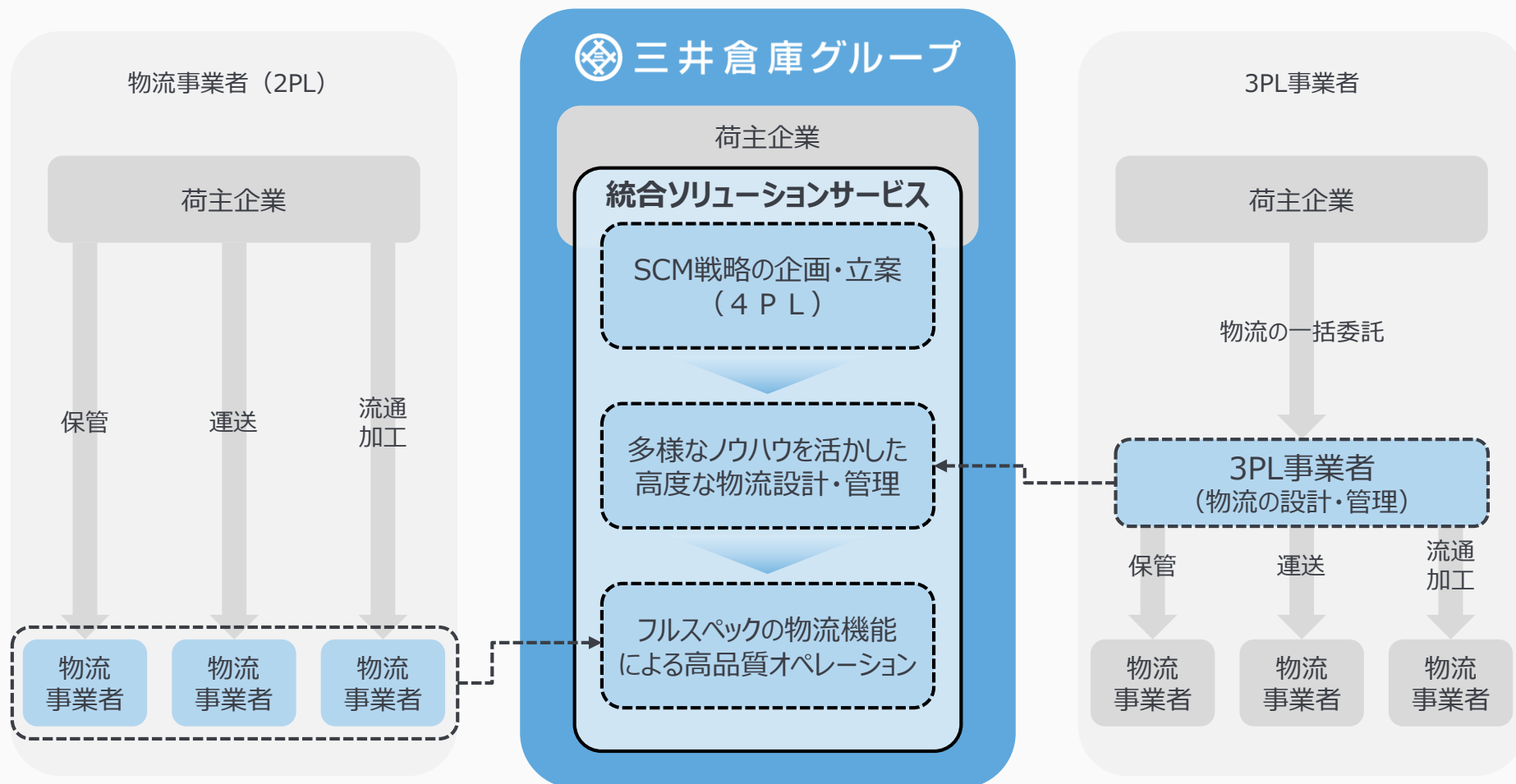
特に環境変化の激しい業界：当社が注力する領域



当社の強み

- 自動車/電子部品/家電の取扱ノウハウ
- 高度・再生医療に関する知見許認可を持ったヘルスケア貨物の取扱実績と品質
- 家電物流センター運営、共同配送、ラストワンマイル配送・設置・保守・修理まで担うテクニカルロジスティクスの実績

- 荷主企業と一体となり、物流に留まらず サプライチェーン全体の最適化を実現する差別化戦略



グループ総合力と、高度な物流ノウハウを活かし 社会変化やお客様のあらゆるニーズに対応

1 フルスペックの物流機能

- 陸・海・空すべてのフィールドでサービスを提供出来るフルレンジのラインナップ
- 調達・生産工程から販売までのサプライチェーン全体をカバーし、多様化する顧客ニーズに対応出来る体制



2 グローバルネットワーク

- 日本国内では約260拠点、全世界で約400拠点を有し、所管面積約220万㎡を誇るグローバルネットワーク
- アジアを中心に世界20か国に展開し、売上高の約25%まで拡大した海外事業

| 南北アメリカ | 欧州・アフリカ・中東 | 南アジア・東南アジア |
|---------------|-----------------|-----------------|
| 拠点数 17カ所 | 拠点数 31カ所 | 拠点数 40カ所 |
| 所管面積 46,817㎡ | 所管面積 64,814㎡ | 所管面積 364,899㎡ |
| 従業員 115名 | 従業員 471名 | 従業員 2,145名 |
| 北東アジア | 日本 | 合計 |
| 拠点数 43カ所 | 拠点数 266カ所 | 拠点数 397カ所 |
| 所管面積 145,875㎡ | 所管面積 1,574,416㎡ | 所管面積 2,196,822㎡ |
| 従業員 545名 | 従業員 5,226名 | 従業員 8,502名 |

数値は2021年3月末時点

3 多様な人材 (専門性・スキル)

- 原材料から完成品、機密情報から医薬品・医療機器・治験薬まで幅広い取扱貨物に関する専門知識とスキル
- M&Aでグループ入りした、背景や文化の異なる多様な専門性とスキルを持つ人材

4 物流設計・オペレーションノウハウ

- メーカー視点の4PLの実績で培ったSCM戦略・物流設計ノウハウ
- トヨタ・ソニーグループの物流を長年支えてきた高品質・高効率なオペレーション

- 「統合ソリューションサービス」の深化
- 積極投資と株主還元強化、高い資本効率の維持

「中期経営計画2022」サマリー（2023/3期～2027/3期）

・詳細は2022年5月10日公表の「グループ理念制定および中期経営計画 2022 策定のお知らせ」をご参照ください。

成長戦略

- グループ総合力結集によるトップライン成長
 - ① 統合ソリューションサービスの拡大
 - ② サステナビリティ対応ビジネスの拡大
 - ③ 業際の深掘
- オペレーションの競争力強化
《 標準化の全社浸透・業務品質の向上・ローコスト化 》
- 深化を支える経営基盤の構築
《 DX・共創・事業アセット・ESG 》

数値目標

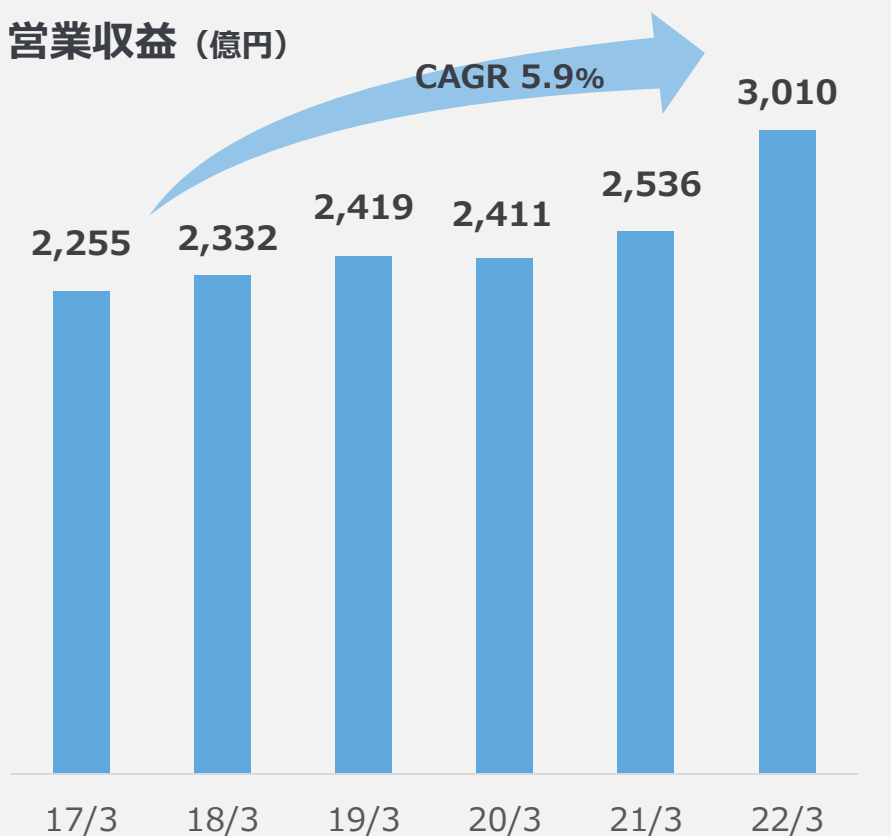
| 2027年3月期 | 営業収益 | 営業利益 | 営業CF |
|----------|-----------------|---------------|---------------|
| 数値目標 | 3,500 億円 | 230 億円 | 300 億円 |

財務戦略

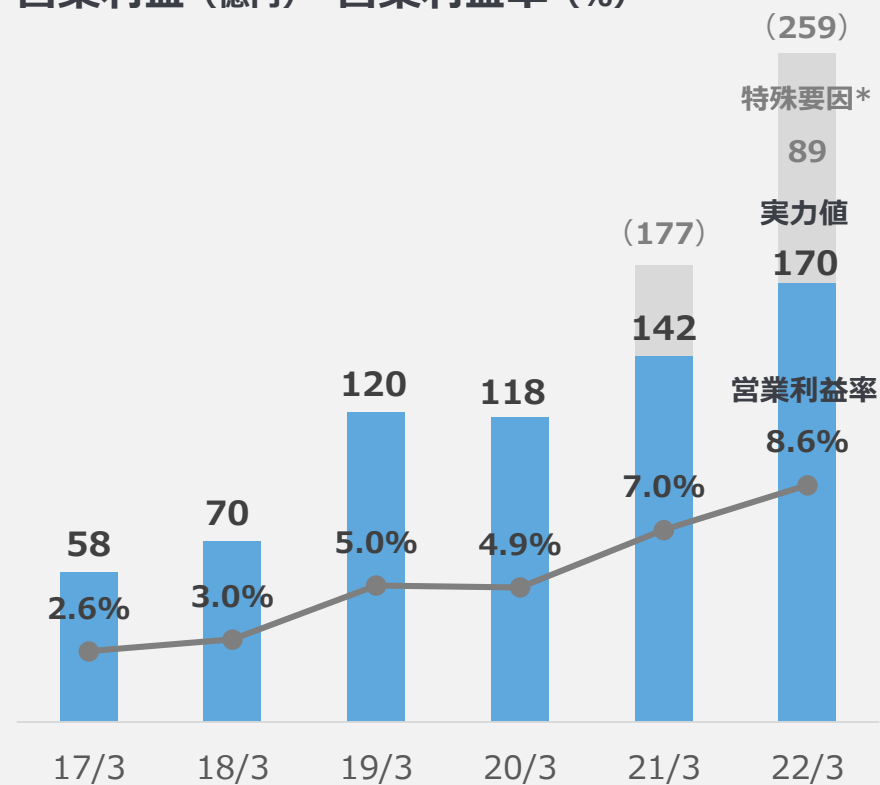
- 投資： 総額**1,300**億円（5年累計）
 - 戦略投資**1,000**億円
 - DX投資
 - 新規設備投資
 - M&Aなど
 - 維持更新投資**300**億円
- 株主還元： 配当性向**30%**
- 財務規律： 最適D/Eレシオ**1.0**倍
- 資本効率： ROE**12%**超

- 営業収益 年平均5.9%成長
- 営業利益率 5年で2.6%→8.6%へ向上

営業収益 (億円)



営業利益 (億円)・営業利益率 (%)



*特殊要因：新型コロナ禍のサプライチェーン混乱に伴う特需

• 様々な外部評価を取得、ESG投資指数の構成銘柄に選定

MSCI
ESG RATINGS



| | | | | | | |
|-----|---|----|-----|----------|----|-----|
| CCC | B | BB | BBB | A | AA | AAA |
|-----|---|----|-----|----------|----|-----|

2021年時点で、当社はMSCI ESG格付で「A」のレーティングを取得しております（AAA-CCCの7段階の評価）。



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

当社は、FTSE Russell社が開発した指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されております。このインデックスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）面に優れた日本企業のパフォーマンスを反映しており、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG指数として採用するなど、ESG投資のための代表的な指数のひとつになっています。



当社は、環境情報の開示状況、炭素効率性（売上高当たり炭素排出量）の水準に着目して、構成銘柄のウエイトを決定する指数である、S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数の構成銘柄です。本指数の中で、当社は炭素効率性に基づくS&Pグローバル炭素基準による十分位数の分類の内、炭素効率性が高い方から2番目の評価である「2」の評価を得ております。

*THE USE BY MITSUI-SOKO HOLDINGS Co., Ltd. OF ANY MSCI ESG RESEARCH LLC OR ITS AFFILIATES (“MSCI”) DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF MITSUI-SOKO HOLDINGS Co., Ltd. BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS, AND ARE PROVIDED ‘AS-IS’ AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.

三井倉庫グループ

三井倉庫ホールディングス株式会社 財務経理部（IR担当）

- ・各種お問い合わせ、IR取材の申込窓口

E-mail : msh_ir_cacp@mitsui-soko.co.jp

WEBフォーム : <https://www.mitsui-soko.com/contact/>

- ・各種IR資料、決算説明会の動画配信

WEB : <https://msh.mitsui-soko.com/ir/>

YouTube「三井倉庫グループ公式チャンネル」

（※リンク先は「YouTube」です）



当社グループの各種サービスや企業紹介等の動画コンテンツの配信を行っております。